

# 令和4年度 学校評価 学校関係者評価書（案）

三木市立緑が丘東小学校

## 1 学校教育目標

心豊かに たくましく 未来をひらく子の育成 「一步先へ 信じよう自分を 認め合おうとともに」「自ら学ぶ 学びの楽しさあふれる学校」

## 2 本年度の重点目標

- 命の尊さを実感し、自他を認め、豊かなかかわりができる子どもの育成が全教育活動の根幹であることを全教職員が共通理解し、組織的な教育活動を展開する。
- 一人一人の考えが生かされ、共に学びを高める授業の創造を目指して、「仲間づくりを意識した授業づくり」を柱とする授業研究に取り組み、子どもたちに学びに向かう基本的な姿勢を養う。
- 保護者・地域と連携することで教育効果を高め、保護者・地域の願いに応える信頼される学校をつくる。

## 3 自己評価結果（達成状況）【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成されていない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目	評価	取組(達成)の状況	改善の方策
道徳・人権教育	<ol style="list-style-type: none"> <li>「特別の教科 道徳」を要とし、「兵庫県版道徳教育副読本」や「三木市指定教材」などを効果的に活用した授業づくりを推進し、学校教育活動全体を通じた道徳教育、人権教育を進め、その実践力を育成する。</li> <li>体験活動や交流活動や異年齢集団を活用するなどし、豊かな人権感覚、社会性や人間性を育成する。</li> <li>偏見や差別を許さず、お世話になっている方への敬意や感謝の念を持つことのできる態度を養う。</li> </ol>	B	<ol style="list-style-type: none"> <li>緑が丘中学校区の小学校間で、ハートフル人権学習の教材とそのねらいや進め方について共通理解を図った。その上で、全教職員で教材研究を行い、学年通信で保護者と連携をとりながら進めた。</li> <li>各学年間で学習の成果を披露したり、東っ子タイムやスポーツフェスティバルの東っ子競技は、6年生を中心に計画・準備したりと望ましい活動ができてい</li> <li>いじめ、偏見・差別につながる雰囲気生まれないように、日々の教育活動全体の中で取り組みを進めた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>人権教育のさらなる充実に向けて、教職員の研修を継続する。道徳教育については、実践力の育成を意識しカリキュラムの定期的な見直しと授業改善に努める。</li> <li>感染症対策を講じながら、体験活動や交流活動、異学年交流の幅をさらに広げていく。</li> <li>教職員が人権意識を高く持ち、折に触れて児童が人権について考えることができるように工夫する。これまでの指導で育っている児童の気持ちや温かい風土をこれからも大切にしながら指導していく。</li> </ol>
学習指導	<ol style="list-style-type: none"> <li>学習規律、学習習慣を確立し、学習意欲の向上を図り、基礎的基本的な知識・技能を習得させる。</li> <li>生きて働く思考力・判断力・表現力を培い、主体的、対話的で深い学びを通じて、学びに向かう力を養う。</li> <li>本校研究主題並びに「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を研究・実践するなど、常に授業改善に努める。</li> <li>ICTの活用、プログラミング教育などの情報教育を推進し、情報活用能力を高める。</li> </ol>	B	<ol style="list-style-type: none"> <li>自分も友だちも大切にしたい学習規律や学習習慣の確立を目指した。学習意欲の向上に向け系統性や内容を見直した。AIドリル等を活用し基礎的基本的な知識や技能の習得を図った。</li> <li>思考を深められるように学習課題を工夫することで、学習者が多様な意見を出し合い学びを深める授業づくりに努めた。</li> <li>「一人一人の思考が広がり、深まる学び」を目指し、個々の興味関心を大切にしたい「自由進度学習」など新しい学習形態にも取り組んだ。学習課題・発問・かり返り・言葉を削る等、主体的に学ぶための手立てについても研修を深めた。</li> <li>一人一台のタブレット活用について積極的に研修に参加し、研修内容の共通理解を図りながら児童がICT機器を文房具の一つとして使えるように取り組んだ。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>系統性や内容の見直しを行い、学習者が自ら学びに向かう指導を継続する。AIドリル等の活用をさらに進め、基礎的基本的な知識や技能の習得を図る。</li> <li>自らの考えを生活と関連付け活用力や実践力を育む学習を設定する。「主体性・協働性・創造力」の育成を目指し、新たな授業づくりを進めるため研修に努め、共通理解を図りながら取り組む。</li> <li>個別最適な学習と協働的な学びの一体的な育成を意識した単元作りに取り組み、児童が主体的に思考を深める授業づくりを進める。</li> <li>ICT機器を積極的に活用させ、効果的な使用場面について学習者同士が交流し、活用能力を高められるようにする。プログラミングについては、系統的に学習を進めるためにカリキュラムを見直し効果的な指導に努める。</li> </ol>
生徒指導	<ol style="list-style-type: none"> <li>児童の内面的な理解に基づく年間指導計画を作成し、組織的な生活指導に取り組む。</li> <li>児童のおもいに寄り添いながら内面的な理解を深め、いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期解決を図る。</li> <li>スクールカウンセラーや、学校生活支援教員等による教育相談体制を確立する。</li> <li>一人一人のよさが認められ、話し合い、合意形成が図られ、意思決定がなされる学級経営を目指す。</li> </ol>	A	<ol style="list-style-type: none"> <li>年間指導計画を軸に、情報を共有し、組織的に共通した生徒指導を行えるよう取り組んだ。</li> <li>児童への生活アンケートや聞き取りをもとに、全職員で共通理解を図り、いじめや不登校などの未然防止・早期発見に努めた。</li> <li>児童の様子について、SCや学校生活支援教員、関係機関などと情報を共有し、児童の内面理解に努めた。SCが児童にとって身近な存在になり、保護者にも適切につなぐことができた。</li> <li>正しいふるまいや行動を主体的に考え、実践できるよう、話し合いを大切にしたい学級づくりを進めた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>常に情報を共有し、全職員で全児童を見守り、組織的な指導を行う。</li> <li>子どもとの対話を通して、児童一人一人の内面理解に努め、事案が起こった際には、迅速で丁寧な初期対応、課題の解決に向けた方策を図る。</li> <li>教職員とSC・SSW、関係機関が連携し、よりよい教育相談体制や支援体制づくりを引き続き進める。</li> <li>一人一人を大切に、主体的に判断し行動できる児童の育成を目指し、共通理解や研修を引き続き行う。</li> </ol>
特別支援教育	<ol style="list-style-type: none"> <li>特別な支援を必要とする児童の実態を早期に把握し、組織的な支援体制を充実させる。</li> <li>切れ目のない一貫した支援を行うため、異校種間や関係機関と連携する。</li> <li>交流および共同学習の場を充実させるなど、インクルーシブ教育の視点に立った支援を行う。</li> <li>本人、保護者との共通理解のもと、一人一人の教育的ニーズに応じた支援や合理的配慮を行う。</li> </ol>	B	<ol style="list-style-type: none"> <li>毎月の支援委員会で課題を共通理解し、支援の方法について検討することができた。</li> <li>中学校、特別支援学校とは、進路に向けて連携がとれている。また、必要に応じて医療機関と連携することで、医療の立場からの所見をふまえて支援ができた。</li> <li>言葉や板書にUD(ユニバーサルデザイン)の視点を取り入れて授業づくりの工夫を行った。誰もが安心して過ごせる体制づくりに向けて、意識の向上に努めている。</li> <li>行事や日々の学校生活・学習について、本人や保護者と話し合いを行い、個に応じた配慮や支援を行った。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>今後も職員全体で子どもを観るという意識を持ち、組織的な支援を行っていく。</li> <li>医療機関との連携は今後も大切にしていく。異校種間の連携を深め、共同研修の場を設けて深い知見や専門性の向上を図っていく。</li> <li>引き続き、UDの視点を取り入れた授業づくりや環境づくりを進める。</li> <li>行事等は、誰もが安心して参加できるよう工夫していく。また、個々の力の積み重ねを大切にしていくために、学習面でも個に応じた支援ができるように共通理解を図る。</li> </ol>
安全・防災教育	<ol style="list-style-type: none"> <li>命の大切さを知り、危険を予測し、判断し、主体的に行動できる力を育成する。</li> <li>災害発生時に、身を守る行動がとれるよう、家庭、地域、消防や警察などと連携し、防災訓練等を通じて、実践的な防災、防犯教育を実施する。</li> <li>定期的な学校施設の安全点検や登下校指導を継続し、安全な環境づくりを進める。</li> </ol>	A	<ol style="list-style-type: none"> <li>全体としては、児童は基本的な生活力が身につけてきている。引き続き、朝会及び日々の学習等で、「命」の大切さや「感謝」の気持ちについて指導するとともに、自分も周りの人も大切な存在であることを再確認した。</li> <li>避難訓練(火災、地震)を実施し、道徳学習(阪神淡路大震災・東日本大震災等)や社会科学学習で災害や災害への備えについて考えることができた。また、地域総合防災訓練を実施し、講話や様々な体験(起震車による揺れの体験・煙体験・消火器体験)を通して、日頃からの防災意識の向上を図った。</li> <li>毎月、校内安全点検を実施し、児童の安全・安心な環境づくりに努めた。交通安全教室や登校・下校指導及び公園等のパトロールを実施し児童の安全確保に努めた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>人権の視点を大切にしながら教職員及び児童が危機管理意識を高めるとともに、多様な場面で自己の命を守るための行動がとれるよう指導を継続する。</li> <li>教職員の防災・防犯研修を充実させるとともに、家庭・地域・関係機関(消防署・警察署)と連携を図り、実践的な避難訓練・防犯訓練を実施する。</li> <li>毎月の安全点検を継続し、必要とする修繕や修理箇所について改善するなど児童の安全・安心な学校環境をつくる。交通安全教室や登校指導・下校指導及び公園・周辺の施設のパトロールを行い、児童の安全確保に努める。</li> </ol>
保護者・地域異校種との連携	<ol style="list-style-type: none"> <li>オープンスクールや積極的な情報発信による開かれた学校づくりを推進する。</li> <li>保護者や地域の支援、指導力を教育活動に適切に取り入れ、保護者や地域とつながる教育活動を推進する。</li> <li>ふるさと学習を推進するため、各学年における主題の在り方を研究し、系統性のあるカリキュラムを作成する。</li> <li>小中一貫教育推進のため、「めざす子どもの姿」を異校種間で共有し、就学前教育、中学校教育との円滑な接続に向け、交流を進める。</li> </ol>	B	<ol style="list-style-type: none"> <li>オープンスクール、学級懇談会、HP、すぐるによる配信など、情報発信に努めた。</li> <li>学習活動への保護者の参加、老人会の方との花植えや芋ほり、昔遊びなど、保護者や地域とつながる教育活動を推進した。</li> <li>社会科や生活科、総合的な学習の中で、ふるさと三木について学ぶ機会がもてるよう取り組んだ。</li> <li>保幼小連絡会、秋フェスタ、緑が丘中学校区6年生の交流を行うなど、就学前教育、中学校教育への円滑な接続に向けて取り組んだ。授業研究に中学校区の教員に参加してもらい、ともに研修する機会をもった。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>感染防止に努めつつ、学校行事を中心に工夫しながら、保護者や地域とつながる機会を設けるなど、今後も積極的に情報発信に努める。</li> <li>老人会をはじめとする地域の指導力を取り入れる等、今後も地域や保護者との連携を深め、地域に信頼される学校づくりを進める。</li> <li>社会科や生活科、総合的な学習の中で、ふるさと三木を意識した学習活動が系統的に取り組めるよう、カリキュラムの中に位置付ける。</li> <li>異校種交流を引き続き行い、教職員同士の情報交流に努め、「めざす子どもの姿」の共有を図る。</li> </ol>

## 4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

評価の方法は概ね妥当である。  
  
コロナ禍が続く中で、学校行事の進め方や参加の仕方等に工夫があり、「一步先へ」の姿勢が感じられる。  
評議委員が学校を訪れる機会も徐々に増えており、評価のための資料も充実している。

## 5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについて
<p>評価は概ね妥当である。</p> <p>緑が丘中学校区の小学校間で人権学習の教材について共通理解や教材研究を行っていることや、体験活動や異年齢集団での活動に取り組んでいることは、評価できる。今後も継続していただきたい。</p>
<p>評価は概ね妥当である。</p> <p>基礎学力の定着と同時に「自由進度学習」や「フリースタイルプロジェクト」などの新しい学習形態を取り入れていることは、高く評価する。今後も、AIの負の部分にも十分留意しながら、一人一台のタブレットを活用し、興味あることや疑問に思ったことについて、自ら進んで学びを深める授業づくりに努めていただきたい。</p>
<p>評価は概ね妥当である。</p> <p>生徒指導上の問題に対して、教師間で情報収集・共通理解をはかることで、適切に対処されている。その成果として、楽しく学校生活を送ることができている児童が多いことは評価に値する。今後もきめ細やかな子どもによりそう指導を続けていただきたい。</p>
<p>評価は概ね妥当である。</p> <p>児童一人一人が持つ課題を全職員で見守るのは大変意義のあることである。今後も、毎月の支援委員会で課題を共通理解・検討することを継続していただきたい。</p>
<p>評価は概ね妥当である。</p> <p>命の大切さや感謝の気持ちの指導を通して、自分も周りの人も大切な存在だと再認識させられたことは素晴らしい。今後も、命を守るための行動が取れる様、命の大切さも含め、指導を進めていただきたい。</p>
<p>評価は概ね妥当である。</p> <p>アンケートからは、学校が保護者や地域から信頼されていることがわかる。 コロナ禍が少しづつ落ち着きはじめていることもあり、家庭・老人会・自治会など地域との関わりをさらに大切にして取組を進めて頂きたい。</p>